

都市再生整備計画(第1回変更)

あしかがちゅうおう
足利中央地区

栃木県 足利市

令和4年4月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

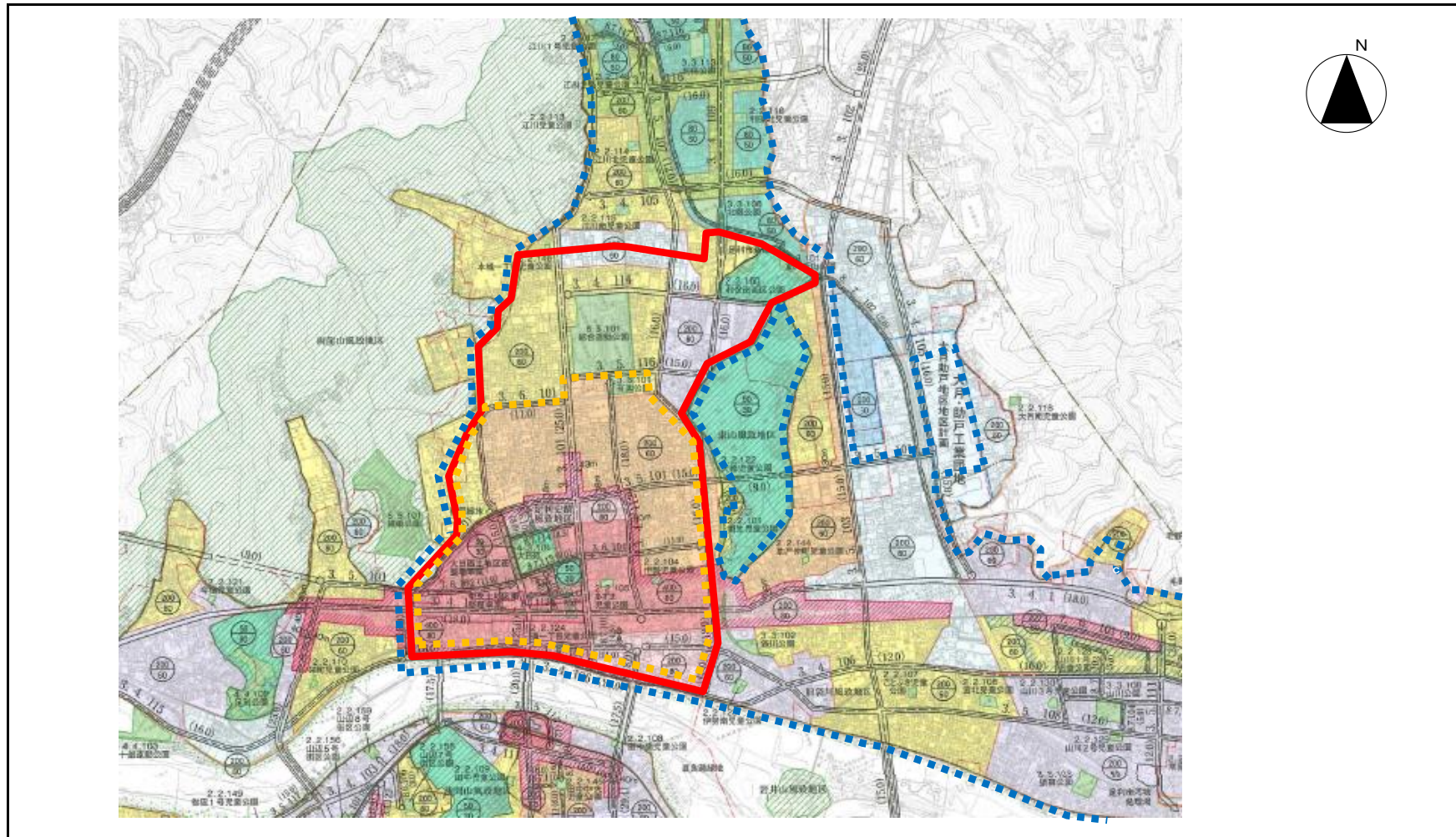
様式(1)-②

都道府県名	とちぎけん 栃木県	市町村名	あしかがし 足利市	地区名	あしかがたゆうおうく 足利中央地区	面積	295 ha
計画期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度	交付期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度				

<p>目標</p> <p>大目標 歴史と文化のまちにふさわしい健康で文化的な生活の実現のための市街地の再生</p> <p>目標1: 既存市街地における老朽化した都市施設の再整備による、快適に住み続けられる居住環境の形成</p> <p>目標2: 子どもから高齢者までが健康で文化的に生活できる環境の形成</p> <p>目標3: 魅力ある都市型観光の実現に向けた環境の整備</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。</p> <p>足利市は、市街地を東西に流れる渡良瀬川を中心にまちが発展してきました。本市がこれまでその周辺に、整備・誘導してきたまちなかの都市機能の集積を今後も維持するとともに、更なるまちなかの利便性向上を目指し、各種施策を展開することで、魅力的な拠点の形成に取り組んでいくこととしています。</p> <p>具体的には、立地適正化計画で位置付けた河北地域における行政機能及び歴史的資源の集積地、河南地域における商業機能の集積地において、地区内の各種施設の更新を誘導することで、地区外への都市機能の拡散を防ぎ、コンパクトなまちの形成を図ることとします。</p> <p>また、河北地域及び河南地域を一体としてまちの拠点として位置付けつつ、居住誘導区域から当該集積地まで公共交通等をつなぎあわせることで、誰もがまちなかの都市機能を身近に感じられ、地区内の施設が利用しやすい都市構造の構築を目指します。</p> <p>さらに、地区内の歴史的資源の活用と回遊性の向上を推進することにより、来訪者が再度訪れたいようなまちなかの形成を図っていきます。</p> <p>施策の例としては、「河北地域は史跡足利学校や国宝鑊阿寺をはじめとする歴史・文化資源やまちなみを活かし、旧来のまちの雰囲気を活かした都市機能の確保や医療・福祉機能の維持・確保による高齢者世代にも魅力的なまちなかの形成」、「河南地域は既に立地している商業機能をはじめとする多様な都市機能を活かした利便性の高いまちなかの維持・形成」を実施し、コンパクト+ネットワーク型の都市構造を目指します。</p>
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>【まちづくりの経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> 足利市は栃木県の南西部に位置し、北は足尾山地から連なる緑の山々、南は関東平野に広がる豊かな田園、そして市街地中心部には渡良瀬川の清流など、美しい自然に恵まれたまちです。また、日本最古の学校といわれる日本遺産「史跡足利学校」のほか、本堂が国宝に指定された足利氏ゆかりの「鑊阿寺」など、歴史と文化の香りに満ちたまちでもあり、令和3(2021)年には、市制施行100周年という節目の年を迎えます。 平成28(2016)年に作成した「第7次足利市総合計画」の中で、将来都市像を「学びあい つながりあい 元気に輝く都市 足利」と定め、まちづくりを進めています。 平成30(2018)年に作成した「足利市都市計画マスタープラン」においては、「多彩な地域と人が織りなす 輝くまち 足利」を計画のテーマとしています。 足利中央地区は、この都市計画マスタープランの中で、地域別構想のひとつの地域として位置付けられています。 現在、令和3年度中の完成を目指して「立地適正化計画」を作成しています。 <p>【現況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 足利中央地区は、本市の中心部に位置する古くから市街地を形成している地区です。その中央に位置する足利学校や鑊阿寺を中心とする歴史的地区には、県外からも多くの観光客が訪れ、本市のにぎわいを代表する地区となっています。 この地区は、都市基盤整備が早くから進められてきたことから道路や公園、下水道などの都市施設は充実しているものの、その反面、施設の老朽化が進行しています。 市内でも比較的多くの住宅が密集している地区で、人口密度も高くなっていますが、他の地区よりも人口減少が進んでいます。 古くからの市民が居住しており、市内の中でも高齢化率が高く、少子化も進んでいる地区です。 地区内では、空地や空家が目立ち、空洞化が進んでいます。
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路や公園などの都市施設が老朽化していることから、利用する市民に対し、様々な不便をきたしています。 バリアフリー構造でない施設や耐震基準を満たしていない建物があり、早期の対策が求められています。 観光施設が点在しており、来訪者の回遊性向上が求められています。
<p>将来ビジョン(中長期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 足利市都市計画マスタープランにおいて足利中央地区は、「歴史と文化にあふれるうつくしいまち」を基本的な考え方としています。 まちづくりの方針として、安全安心で快適に生活でき、活気あふれる市街地の再生、再構築を進めるとしています。 土地利用の方針として、市街地中心部の魅力向上や良好な居住環境の保全をすすとしています。 都市施設の方針として、スマートウェルネスシティの推進や老朽化した公共施設の適正な整備を進めるとしています。 歴史的地区周辺を景観重点地区に指定し、地区の特性に配慮した景観づくりを進めています。 ウォークアブル推進都市の登録を受け、歩きたくなる街路づくりを進めています。

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【安全・快適な居住環境の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化の著しい都市公園を良好な環境に再整備して、地域のふれあいの場を確保する。 ・都市公園に隣接する都市計画道路を整備し、市民や来訪者の通行の安全性及び歩行者の快適性を確保する。 ・公共下水道の整備を推進し、衛生的で快適な市街地環境を確保する。 ・市街地中心部の土地区画整理事業により公共施設を整備して、市民の生活環境の改善を図る。 ・老朽化した公共施設の更新を行うことで、安全・安心な施設の提供を実現し、利用者の満足度をアップする。 	<p>道路事業【基幹事業】 公園事業【基幹事業】 下水道事業【基幹事業】 道路事業【関連事業】 土地区画整理事業【関連事業】 地域創造支援事業【提案事業】</p>
<p>【子どもから高齢者までが健康で文化的に生活できる環境の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園施設の更新にあわせ、健康遊具等も配置し、子どもから高齢者までが快適に利用できる公園を整備する。 ・まちなか駐車場を整備することで、周辺公共施設利用者の利便性の向上を図る。 	<p>公園事業【基幹事業】 地域生活基盤施設【基幹事業】</p>
<p>【魅力ある都市型観光の実現に向けた環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地中心部の土地区画整理事業により公共施設を整備して、来訪者の魅力向上を図る。 ・居心地が良く歩きたくなる街路を目指し、街路空間の再構築に向けて取り組む。 	<p>土地区画整理事業【関連事業】 事業活用調査事業【提案事業】</p>
<p>その他</p>	
<p>足利中央地区周辺で実施されるその他のまちづくりに関連する事業</p> <p>○中橋の架け替え 足利中央地区の南側に流れる渡良瀬川に架かる中橋は、昭和11年に架橋された3連アーチが美しい橋です。この橋の兩岸の堤防は、周辺よりも低く切れ込んでおり、水害の危険性が以前から問題となっていました。昨年の台風第19号の際には、渡良瀬川の水位が上昇し、上流の草木ダムからの緊急放流の情報もあったことから、切れ込んだ堤防に大型土のうを設置し、被害の防止に努めました。このような中、1日も早い堤防高上げ、それに伴う中橋の架替を実現するため、国・県・市の3者で組織された「中橋整備検討委員会」で課題の整理や整備方針などを協議し、このたび整備方針がまとまり架け替えに向けて大きな一歩を踏み出しました。この中橋架替事業を、新しいまちづくりのツールとして捉え、本市中心部の活性化につなげていきます。</p> <p>○渡良瀬川河川敷のオープン化 渡良瀬川河川敷の更なる有効活用を目指し、国土交通省渡良瀬川河川事務所と協議を重ねてきました。その結果、市民や来訪者等の憩いの場として河川敷の魅力をより一層高めることを目的として、足利中央地区に隣接する河川敷に渡良瀬川河川事務所と連携した「かわまちづくり支援事業」を導入するとともに、一部区域のオープン化を図ることで、民間活力を活用した公園整備を実施します。</p> <p>○道路占用許可基準の緩和による新たな道路空間の利用 本年6月、国土交通省が新型コロナウイルス感染症の影響を受ける飲食店等の事業者に対し、「テイクアウトやテラス営業などのための道路占用許可基準の緩和」を通知しました。そこで、足利中央地区内の北仲通り周辺の飲食店等の経営者で組織される「足利ミッドタウン商店会」と協議を行ったところ、北仲通り沿道の歩道上でテラス営業を行いたいとの要望を受けたことから、新型コロナウイルス対策とともに、中心市街地の更なる活性化に向け、足利ミッドタウン商店会と協働して「ほろ酔いテラス」を実施することになりました。この取り組みは、栃木県が主催する「まちなか元気会議」に本市職員が参加し、民間主導による公民連携まちづくり手法である「リノベーションまちづくり」の調査・研究を行ってきた成果を踏まえたものです。</p> <p>○景観重点地区の指定 足利学校・鏝阿寺及びその周辺の地区は、本市を代表する歴史・文化の薫りを継承するとともに、本市の顔となる地区です。そのため、当該地区を足利学校・鏝阿寺周辺地区として景観重点地区に指定し、地区の持つ景観特性を踏まえた上で、地区独自のきめ細かな景観誘導を図るための方針や基準を設け、地区の特性にふさわしい積極的な景観の形成を図ります。</p> <p>○高等学校の統合 日本最古の学校「足利学校」のあるまちにふさわしい、県内屈指の普通科高校を目指して、足利中央地区内の足利高校(男子校)と足利女子高校を令和4年に統合する計画が進められています。この統合校は、現在の足利女子高校の敷地と足利市民会館の敷地の一部を利用して整備されることから、新たなにぎわいの創出が期待されます。</p>	

足利中央地区(栃木県足利市)	面積	295 ha	区域 通1丁目、雪輪町、井草町、大門町、昌平町、家富町、柳原町、大正町、有楽町、元学町、東砂原後町、西砂原後町、田所町、旭町、大橋町1丁目、丸山町、大町、伊勢町3丁目、新山町、伊勢町、利保町の全部 通2丁目、通3丁目、通4丁目、巴町、本城1丁目、本城2丁目、本城3丁目、大橋2丁目、永楽町、伊勢町1丁目、伊勢町2丁目、相生町、助戸新山町、伊勢町4丁目、伊勢南町、利保町1丁目の一部
----------------	----	--------	--



足利中央地区(栃木県足利市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	目標1 既成市街地における老朽化した都市施設の再整備による 快適に住み続けられる居住環境の形成	代表的な 指標	地区内人口の5か年減少率 (%)	-7.64 (R元年度) → -7.00 (R7年度)
	目標2 子どもから高齢者までが健康で文化的に生活できる環境の形成		まちなか駐車場周辺公共施設の利用者数 (人/年)	394,495 (H30年度) → 395,000 (R7年度)
	目標3 魅力ある都市型観光の実現に向けた環境の整備		地区内にある歴史・文化・観光施設の入込客数 (人/年)	743,757 (R元年度) → 800,000 (R7年度)

